

# 現代社会の諸課題に対する学生の意識 —「教職演習」における研究発表を通して—

佐々木英夫

## Students' Awareness of Various Problems in Today's Society —A Survey Based on the Presentations by Students in the Teacher-Training Seminar—

SASAKI Hideo

Having entered the 21st century, the society is more complicated than ever. We have many problems to solve. Problems are heaped up in the fields of environment, welfare, international understanding, new information technology and so on.

A survey was made in the classes of the Teacher-Training Seminar in order to find how seriously young people were concerned about the problems of today's society and how they handled them. It was found that the students had more understanding of them than expected and they showed a sincere attitude toward the solutions of the problems.

The relationship between two subjects of study, the Teacher-Training Seminar and the Periods for Integrated Study is also explained.

### Keywords:

Teacher-Training Seminar, Periods for Integrated Study, welfare

教職演習

総合的な学習の時間

福祉

### 1 はじめに

今、学生たちは21世紀を生きる人類に共通する課題や、我が国社会全体にかかわる課題について、どの程度関心を持っているのであろうか。アルバイトに明け暮れたり、卒業後も気ままな暮らしがよいとフリーターを選択する若ものたちが少なからずいることを聞くにつけ、いささか心配にもなる。

そこで、平成13年度担当することになった「教

職演習」の中で、この問題を教材として取り上げることにした。適正な機会を計画的、継続的に設定することによって、のちの考察でふれるが、若ものたちの真摯な姿がうかび上ってきたのである。以下その実践過程を述べてみる。

### 2 「教職演習」を学ぶ目的

平成13年度に、初等教育科2年生213名に対し、教育職員免許法による『教職に関する科目』で免許必修科目である「教職演習」を担当した。この

科目は21世紀の地球社会に生きる人間、特に若ものたちが、地球的規模で派生するさまざまな問題にどう取り組み、その克服に向かつてどのように対応すべきかを学習する場となっている。しかしながら、この科目は平成9年7月の教育教員養成審議会第1次答申の提言『新しい時代に向けた教員養成の改善方策について』を受けて生まれた新しい科目であるため、これまでの実績や経験が全く無く、当初は手探りの試行的な状況の中で開講した。ここで注目すべきは平成14年度から全国の小・中・高校でスタートした新教育課程の目玉ともいえる「総合的な学習の時間」と、その目的・内容において大いに関連している点である。今、日本中の学校現場が、この新しい学習をどのように展開しようかと模索している中で、これから巣立つ学生たちにとっても、「生きる力」が試される内容でもある。

### 3 「教職演習」と「総合的な学習の時間」の関連性

先に両者の間に関連性があることを述べたので、具体的に各種資料から関連事項を抜き出し、両者の共通項を探ってみたい。

先ず「教職演習」について、教育教員養成審議会第1次答申『新しい時代に向けた教員養成の改善方策について』で提言されている具体的改善方策のいくつかを抜粋してみる。

◎……人間尊重・人権尊重の精神はもとより、地球環境、異文化理解など人類に共通するテーマや少子・高齢化と福祉、家庭の在り方など、我が国の社会全体に関わるテーマについて、教員に志願する者の理解を深めその視野を広げると共に、これら諸課題に係る内容に関し適切に指導することができるようにする。

◎……上記のような諸課題のうちのいくつかについて選択的にテーマを設定した上で、ディスカッション等を中心に演習形式の授業を行うものとする。授業方法については、例えば可能な限り実地の見学・参加や調査等を取り入れるなどして教員を志願する者が、現実の社会の状況を適切に理解できるよう必要な工夫を凝らすことや、幼児・児童・生徒への指導という観点から、

指導案や教材を試行的に作成したり模擬授業の実施なども期待される。

◎……「教科に関する科目」及び教科指導等に関する科目について、国際化、情報化、地球環境などの今日的なテーマに留意した教育内容が十分確保されるよう、各大学は配慮する必要がある。

次に平成14年度からスタートした新教育課程の第四領域ともいわれる「総合的な学習の時間」について、小学校学習指導要領では第1章総則において以下のように述べている。

#### 第3 総合的な学習の時間の取り扱い

- 1 (略)
- 2 総合的な学習の時間においては、次のようなねらいをもって指導を行うものとする。
  - (1) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
  - (2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て自己の生き方を考えることができるようにすること。
- 3 各学校においては、2に示すねらいを踏まえ、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、児童の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて、学校の実態に応じた学習活動を行うものとする。
- 4 (略)
- 5 総合的な学習の時間の学習活動を行うに当たっては、次の事項に配慮するものとする。
  - (1) 自然体験やボランティア活動などの社会体験、観察・実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れること。
  - (2) (略)
  - (3) (略)

このように両者を比較してみると、その関連の深さが大きく浮かび上がってくる。特に「第3 総合的な学習の時間の取扱い」の3に、「例えば」とことわっているものの、課題として取り上げる内容として例示している「国際理解」、「情報」、「環境」、「福祉・健康」……などは、その授業方法をも合わせて、教育教員養成審議会第1次答申の具体的改善方策として提言されているものと一致している。これらのことからイメージされることは、学校現場において「総合的な学習の時間」は、全教員がその授業を担う責務を有すべきものであることからして、教職を目指す学生たちが「教職演習」を履修することによって、「総合的な学習の時間」の指導に必要な知識・技能を身に付けることは極めて重要なことであり、そのことなくして子どもたちに「生きる力」をつけることは出来ないということである。

#### 4 関連性を踏まえたシラバスの作成

2で述べた事柄を踏まえつつシラバスを作成したが、その目的を「現在、人類に共通する課題や、我が国社会全体にかかわる課題について、各自問題提起をする。そしてそれらの資料を積極的に収集し、分析及び検討を行ない学校教育の場での指導のあり方について演習（研究発表）を行う」とし、この目的にそって授業の内容を「全員、各自の研究課題を設定し研究発表を行う。そののち研究討議により深めてゆく」こととした。

#### 5 「今、地球規模で解決を迫られる問題」の設定

各自の研究発表に先立ち、それぞれの研究課題を設定するための手掛かりとして、20世紀の負の遺産として21世紀に引継がれた「地球規模で解決を迫られる問題」について発表させた。大きな問題、小さな問題等、さまざま提示されたが以下のように集約した。

- (1) エネルギー供給問題……増加の一途のエネルギー需要と石油資源の有限化
- (2) 自然環境保護の問題……開発と環境保護の調

和

- (3) 高齢化社会の問題……少子高齢化と社会福祉のあり方
- (4) 人口問題……増加する開発途上国、減少する先進諸国
- (5) 食糧問題……食料の生産、分配の不均衡問題
- (6) 国際・民族紛争の問題……紛争がもたらす貧困と飢餓、にくしみと報復
- (7) 貿易不均衡の問題……貿易赤字、貿易黒字と国際間協調
- (8) 国際交流活性化の問題……異文化交流による相互理解の促進
- (9) 情報メディアの問題……情報発達にともなう負の部分への対応
- (10) 文化遺産保護の問題……宗教的・政治的対立からの保護
- (11) 都市と地方の調和ある発展の問題……過疎、過密地域の解消

#### 6 学生が選択した今日的課題

「現在、人類に共通する課題や、我が国社会全体にかかわる課題」として、213名の学生たちは、5で設定された(1)～(11)までの問題を手掛かりにそれぞれ一つずつ研究課題を選択した。選択の結果を、以下のように《福祉》、《環境》、《国際理解》、《情報》の四つの類型に分類した。

《福祉》	
・高齢化問題	28名
[ 老人福祉、特別養護老人ホーム 老人ホーム、高齢化と社会保障 高齢者虐待、高齢者とのコミュニ ケーション等 ]	
・児童虐待	17名
・少子化問題〔少子高齢化社会等〕	11名
・介護保険制度〔介護問題等〕	7名
・年金問題〔保険料の負担等〕	4名
・医療体制〔医療センター、保険等〕	3名
・障害者問題〔障害者の雇用等〕	2名
・代理出産	2名
・薬物問題〔薬物乱用等〕	2名

・アルツハイマー	2名
・バリアフリー	2名
・保育所の実態〔保育所の待機児等〕	2名
・いじめについて	各 1名
・ハンセン病問題	
・しつけについて	
・遺伝子組み換え	
・介護犬について	
・学級崩壊	
・失業問題	

計19課題89名

## 《環境》

・地球温暖化	22名
・エネルギー問題	8名
〔石油に代るエネルギー等〕	
・ダイオキシンについて	8名
・ごみ問題	7名
・環境ホルモンについて	4名
・自然環境破壊について	4名
・野生動物の危機〔絶滅が近い動物等〕	3名
・森林破壊	3名
・節水について	2名
・リサイクルについて〔資源再利用〕	2名
・酸性雨	2名
・原子力発電	2名
・里山について	各 1名
・水源汚染	
・魚のメス化	
・電磁波	
・都市計画	各 1名
・火星	

計18課題77名

## 《国際理解》

・国際紛争について	9名
〔民族紛争等、紛争による飢餓と貧困〕	
・エイズについて	6名
・地雷について	6名
・食糧問題について	4名
・人口問題について	4名
・貿易不均衡問題について	3名
・ユニセフについて	3名
・世界遺産	各 1名
・国際協力	
・漁業問題	
・国際ボランティア	
・外国人労働者	
・国際交流の活性化	各 1名
・災害緊急援助	
・アメリカとのコミュニケーション	

計15課題43名

## 《情報》

・情報メディア	・メル友殺人	各 1名
・サイバーストーカー		
・携帯電話の料金について		
計 4課題		4名

## 7 研究発表の形式について

前記6の今日的課題は、下記の形式にそって研究発表されたものである。その内の5点を研究発表例図A～Eとして本ノートに紹介する。

- (1) 発表時間……1人6分程度（質疑を含む）
- (2) 発表の内容……①～④の事項で内容構成をする
  - ① この課題を選んだ理由
  - ② この課題の実態（現状）報告
  - ③ 解決にむけて……イラスト・絵を中心に視覚に訴える方法で表現。  
現在の人類の英知では実現できそうにもない超現実的なドリームビジョンでよい
  - ④ 編集後記……この課題を追求して感じたこと
- (3) 発表の方法……研究発表例図A～Eを参照
  - ① B4画用紙に(2)－①～④を「新聞形式」で自由に割付をする
  - ② (2)の①、②にかかわる資料は裏面に添付（新聞の切り抜き程度で可）
- (4) 評価
  - ① 当日の発表及び(3)－①、②による提出物による。なお、当日の発表は(2)－①、②のみとし、最終講義の前週までに③、④を完成させて提出する
  - ② 発表を聴く側の学生は「評価表」に形式にそって記入し毎回提出する

## 8 考察

演習形式の授業にしては、いささか学生数が多く課題追求の深まりに欠けるきらいはあったが、探求姿勢はそれぞれに真摯であった。

発表された課題数も56種にのぼり、世界や我が国に派生する諸課題も網羅されているように思う。

「高齢化問題」、「児童虐待」、「地球温暖化」、「国際紛争」、「少子化問題」等は、現代社会を反映してか研究課題として多く選択されていた。四類型の中では、《情報》関係が少なく、“携帯”を手放さない学生の姿から意外に思ったが、複数選択にすれば様相も変わってきたことと思う。しかし、選択数の少ない課題の発表も、「里山について」、「外国人労働者」、「メル友殺人」、「遺伝子組み換え」等々、それなりに新鮮さがあり興味をひくものであった。

本ノートは、もっぱら学生たちがどのような課題に関心を持っているかに焦点を当てるにとどめ、その具体的解決策は「夢」にまかせた結果、期待したほど破天荒な夢は少なく、よい意味での堅実路線が多く見られたが、それらの詳しい内容は本ノートでは略する。これらは、課題山積の21世紀を担う若ものたちか、今後自分自身を含め、子、孫のためといった現実場面に直面したとき生きてくるものだが、決して困難を回避することなく、「総合的な学習の時間」や「教職演習」で培った「生きる力」を発揮してもらいたいものである。

#### 参考文献

- ・ 教育教員養成審議会第1次答申「新しい時代に向けた教員養成の改善方策について」  
平成 9年 7月文部省
- ・ 小学校学習指導要領 平成10年12月文部省
- ・ 特色ある教育活動の展開のための実践事例集  
—「総合的な学習の時間」の学習活動の展開—  
(小学校編) 平成11年10月文部省

#### 研究発表例図



・ 図A 「えっ!! 日本人がいなくなる!？」



・ 図B 「オゾン層」

★解決にむけて★

# 年金問題

＝死守者＝  
00505123 (B)  
佐野美智子 (B)

★この課題を遂げよう！理由★  
老後生活に不安を感じている人が増えている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。この課題を遂げよう！理由は、老後の生活に不安を感じている人が増えている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。この課題を遂げよう！理由は、老後の生活に不安を感じている人が増えている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。

★この課題の重要性★  
年金制度は、老後の生活に大きく関係している。この課題を遂げよう！理由は、老後の生活に不安を感じている人が増えている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。この課題を遂げよう！理由は、老後の生活に不安を感じている人が増えている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。

★この課題の解決策★  
年金制度は、老後の生活に大きく関係している。この課題を遂げよう！理由は、老後の生活に不安を感じている人が増えている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。この課題を遂げよう！理由は、老後の生活に不安を感じている人が増えている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。

★解決にむけて★

# 豊かな老後は…

## 自己の責任で

★この課題を遂げよう！理由★  
老後の生活に不安を感じている人が増えている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。この課題を遂げよう！理由は、老後の生活に不安を感じている人が増えている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。

★この課題の重要性★  
年金制度は、老後の生活に大きく関係している。この課題を遂げよう！理由は、老後の生活に不安を感じている人が増えている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。この課題を遂げよう！理由は、老後の生活に不安を感じている人が増えている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。

★この課題の解決策★  
年金制度は、老後の生活に大きく関係している。この課題を遂げよう！理由は、老後の生活に不安を感じている人が増えている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。この課題を遂げよう！理由は、老後の生活に不安を感じている人が増えている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。

・図C 「サイバーストーカー」

・図E 「年金問題」

# 野生生物の危機

野生生物の危機は、人間の生活に大きな影響を及ぼしている。この課題を遂げよう！理由は、野生生物の危機は、人間の生活に大きな影響を及ぼしている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。この課題を遂げよう！理由は、老後の生活に不安を感じている人が増えている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。

★この課題の重要性★  
野生生物の危機は、人間の生活に大きな影響を及ぼしている。この課題を遂げよう！理由は、野生生物の危機は、人間の生活に大きな影響を及ぼしている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。この課題を遂げよう！理由は、老後の生活に不安を感じている人が増えている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。

★この課題の解決策★  
野生生物の危機は、人間の生活に大きな影響を及ぼしている。この課題を遂げよう！理由は、野生生物の危機は、人間の生活に大きな影響を及ぼしている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。この課題を遂げよう！理由は、老後の生活に不安を感じている人が増えている。特に少子高齢化が進む中、年金制度は老後の生活に大きく関係している。

・図D 「野生生物の危機」

## 要旨

21世紀の複雑多岐にわたる現代社会において、人類が解決を図らなければならない課題は、環境、福祉、国際理解、情報、をはじめいろいろな面で山積みしている。今を生きる若ものたちが、これらのことにどれほどの関心と取り組む姿勢を持っているだろうか。

そのことを、「教職演習」の授業の中で検証してみた。結果、予想以上に諸課題に対する認識度も高く、解決に向けての真摯な姿勢を見ることができた。さらに「教職演習」と「総合的な学習の時間」との関連についてもふれた。

(2002. 10. 29. 受稿)